

## 先入観で判断せず、患者さんの心に寄り添う温かみのある医師に

1学年の「医学入門」で教えられた「患者さんの心の声を聞き、患者さんから学ぶように」という先生の言葉が今でも心に残っています。勉強はもちろん、「人」としても成長しなければならぬと感じました。

例えば「痛い」の一言が身体的、精神的、社会的な痛みのどれによるものかは人によって異なり、治療方針も状況に応じて色々な面から考えなければいけません。問診で患者さんの話を引き出し、何に悩んでいるか耳を傾ける大切さを学びました。グループで意見を言い合うテュートリアル型の学習では、自分と異なる視点を知ることができ、病名や治療法を考える上で役立ちます。「患者さんの心に寄り添う医師」を目指し、課外活動等で人間的な成長も図りながら、勉強に励んでいます。



医学部  
医学科 5学年

岡本 峻和さん  
大阪府 桃山学院高校出身

### My schedule (4学年10月)

	MON	TUE	WED	THU	FRI
9:00	産科婦人科学	整形外科学	法医学	産科婦人科学 整形外科学	症候・病態学演習
10:40	腫瘍・輸血・血液学		CBT演習		
13:00	小児医学	腫瘍・輸血・血液学	症候・病態学演習	小児医学	産科婦人科学 再生・移植医学
14:40					
16:20					



弓道部、ボランティア活動、海外研修、学生会活動に参加し、視野が広がりました。

## ■ Graduate's Voice 卒業生の声

### 救命医学の国際大会に参加して 世界中の医学生とも学びを深める

医学はもちろん、人間関係の構築の仕方やストレスの対処法、疑問の解消策、チームで何かを成し遂げる方法など、数え切れないほど多くのことを在学中に学びました。また、力を入れて取り組んだのが、タイのコンケン大学で開催される救命医学の大会「KKU ICEM」です。私はこの大会に2度出場し、アメリカやフランス、中国、南アフリカなど、世界中から集まった医学生と救命医学に関する問題を解いて、競いました。また、現地の病院の救急救命室(ER)の見学や実習に参加できたことは学生時代の貴重な経験となりました。

現在は、救命救急や感染症に強い病院で初期研修医として診療に参加しています。福岡大学で、悩み、努力したことは、現場のさまざまな場面で力と

なっています。皆さんが医師になった後も救える命はたくさんあるはずです。いつか、医療現場でお会いできることを楽しみにしています。



岡本 峻和 さん (2020年卒業)

りんくう総合医療センター  
臨床研修センター

※2020年取材時の情報です。